

巻・頭・言

竹尾 恵子

国立看護大学校長

* Keiko Takeo / President of National College of Nursing, Japan

国立看護大学校は設立5年を経て、研究紀要も第5巻を出すことになりました。平成17年に行われた研究活動や教育活動について、多くの教職員からその業績をここに報告していただけることは、大変喜ばしいことです。

本学では平成17年4月に研究課程部が発足し、修士課程の教育が始まりました。修士の学位を目指す学生たちを迎え、研究活動は一層活気付いてきています。本学が臨床看護重視の教育を目指していることは、教育目標として掲げていますが、こうした目標を踏まえて、臨床に根ざした研究がたくさん報告されるよう願っています。看護学は臨床あつての学問であり、教育であることは論を待ちません。

一方、教育や医療の在り方は大きく変わろうとしています。国立大学は既に、すべて独立法人化しており、国立病院も独立法人へと移行しました。ナショナル・センターの独立法人化も時間の問題だと思います。そうした大変動の中で、本学が今後どのように目標を見据えて教育を行っていくかは大いに議論しなければならない課題です。人々にとって看護が必要とされており、人々の役に立つものであることに疑いの余地はありませんが、看護職という人材育成、教育活動をより効率的、効果的に行う必要に迫られていることも事実です。

勿論、看護活動の効果、効率性を示すエビデンスを探って、研究活動が活発に行われなければなりません。また、研究結果は臨床看護活動を支え、導くものとして大いに役立てていかなければなりません。そうした意味からも、実践に役立つ研究や教育を大いに推進していただきたいと願っています。

今までの5年間、本学は政策医療看護学の教育基盤を強化してきました。しかし、これからの5年間は次なる課題と困難に立ち向かわねばならないようです。社会の変化に対応して、本学が進むべき道を見失うことなく教育・研究活動が行われることを願って、紀要第5巻のご挨拶といたします。